

第10回生産マイスター検定 ベーシック級の結果振り返りと現場の活動から

生産マイスター検定委員 石山 真実

■第10回検定の結果を振り返る

ベーシック級の結果を振り返りますと、「品質」の得点率が58.9%と低い傾向が見られます。他の単位は全て60%以上であり、その中でも「役割」は83.3%とかなり高い得点率になっていました。このことから、現場でのものづくりをきちんと行っていくための役割や、ものづくりの基礎知識は十分理解されていると思われます。

それに対して、お客様に向けて、最も重要な要件である品質に関しては、まだまだ学習不足であることが心配されます。

特に、品質の維持管理や、不良防止の活動についての理解不足が多く見受けられます。品質の重要性については理解されていると思いますが、そのために自分は日々何をすべきかを再度テキストを熟読し、学習していただければと思います。

また、品質改善を進める時にも、使用するツールを理解しているのと理解していないのでは、改善の効率的な進め方ができるかどうか、いい結果がだせるかどうかには大きな影響があります。

品質改善のツールとしてはQC7つ道具がありますので、これらもよく理解してぜひ活用してみてください。

■現場の活動から

先日、訪問したB社では、さらなる品質向上を目指して、ベテランの「カンコツ」を解明する取り組みを行いました。この時に活躍したのは若手の作業者の方々でした。この方々が、ベテランと自分は「具体的に」なにが違うのか、ベテランは何ができて、自分は何ができないのかを、ベテランとマンツーマンで議論や作業観察を行い、「カンコツ」解明をしました。

長い経験が必要と思われた「カンコツ」も、若手自ら理解できるまでベテランとやり取りすることで、ずいぶんと明確になり、ベテランの皆さんも驚かされていました。ベテランのようにできないとあきらめずに、このような取り組みも行いながら、ぜひ、さらなる品質向上へ挑戦していただきたいと思います。

以上